

2017～2019 年度「日本エネルギー環境教育学会」役員候補者抱負一覧表

理事会推薦候補

役職	氏名	抱負
会長	澁澤 文隆 (現 副会長, 実践委員長)	<p>学習指導要領に「総合的な学習の時間」が位置づけられた当初から、学校教育にエネルギー教育を導入し軌道に乗せるべく活動し、2008年4月に「今、始めないと！エネルギー・環境教育（東京書籍）」を出版しました。</p> <p>2014年8月以降、学会副会長および実践委員長として、学校現場での地域の状況に応じた実践を推進することで、学会活動に貢献できたのではないかと考えています。今後は、エネルギー教育は生涯学習の課題であることを踏まえ、学校教育にとどまらず社会教育にもエネルギー教育を定着させていきたいと考えます。なお、会員の活動の場を拡充する観点から、英文雑誌の編集・刊行についても検討していきたいと思っております。</p> <p>(推薦) エネルギー環境教育に当初から携わり、実践校やモデル校活動で指導的役割を果たして来られた実績がある。社会科の立場から学会の新たな展開が期待される。</p>
副会長	八田 章光 (現 副会長, 企画調査委員長)	<p>温暖化などの地球規模の環境問題が深刻化する中で、人類の持続可能な発展に向けて世界的な取組みが求められ、本学会の果たすべき役割はますます重要度を増している。しかし学会の趨勢そのものは設立以来大きな変化がなく、次の発展に向けてより多くの会員の確保、学術活動と広報活動の活性化を通じたプレゼンスの向上が必要である。これまで理事と副会長として経験してきた学会運営経験を元に、しかし過去に縛られず、新たな飛躍に向けた組織や運営の改革に貢献できれば幸いに思う。</p>
副会長	葛生 伸 (現 理事)	<p>地域拠点大学活動をきっかけに、教員研修、公開講座、PTA研修会、児童生徒の教育啓発活動を通じて様々な立場の人たちに「熱とエネルギー」を納得するように説明する手法やそのための教材の開発を行ってきた。これらの成果を大学での教養教育、導入教育、技術者倫理教育に反映してきた。大学の一教員として、「個人と社会の未来を創る教育」(ESD含む)のプロトタイプ開発を目指しながら、本学会の活動を通じて教科横断的な視点で学校教員が将来を担う人材育成能力を伸ばしていくことに寄与していきたい。</p> <p>(推薦) 独自の教材開発や教員講習などに意欲的に取り組んでおられ、全国大会開催の経験もあり学会運営を担う実行力がある。</p>
副会長	高木 浩一 (現 理事, 編集委員長)	<p>私の学会の活動のこれまでの実績は、編集委員会(改名前は審査委員会)の委員長を2期務めた、全国大会を大会委員長の立場で東日本大震災の翌年(2012年8月)に実施した、あたりと考えています。</p> <p>今回の改選で信任が得られた場合は、これまで得たスキルをもとに、広報や事業実践などの委員会で、学会の発展および学会に所属している方の利便に、うまくつながるように考えながら、学会の案件に取り組みたいと思っています。</p>
理事	安藤 雅之 (現 理事)	<p>これまで学校、企業等の協力を得て、社会科教育からのアプローチによるエネルギー環境教育の実践・開発研究や、教員養成におけるエネルギー環境教育の推進に取り組んできました。またエネルギー拠点大学や学会での活動を通して、人々が自らの生き方を探究し、よりよい社会づくりに参画する資質・能力を形成する必要性を学びました。2009年度からの学会誌査読・編集委員としての経験を元に、エネルギー環境教育の普及・拡大に向けて精一杯尽力します。</p>
理事	石川 直彦 (現 理事)	<p>平成14年度に当時の勤務校練馬区立高松小学校がエネルギー教育実践校になってから、実践を多くの教科で積み重ね、小学校におけるエネルギー環境教育の考え方や進め方、現状について、理事として学会の活動に反映させてきた。知・情・意の調和がとれた実践を目指し、第1回の全国大会から数多くの実践を発表した。主な発表に、「つながりと広がり大切にしたいエネルギー教育の展開」(2007年)、「体感学習を取り入れたエネルギー教育の手法に関する研究」(2008年)、「環境行動を発信することができる児童を育てるための研究」(2010年)、「緑のカーテン～エネルギー環境教育としての展開～」(2011年)「エネルギー環境教育の実践からアクティブ・ラーニングを考える」(2015年)などがある。今後も実践委員会に所属して、各地域における実践を収集し、学会内で広めていきたい。</p>

理事	今村 哲史 (現 理事, 国際交流委員長)	学会設立以来、理科教育や環境教育の視点から学会員として活動を行ってきました。2012年度に理事をお引き受けし、2012～2014年度は編集委員、2015～2016年度には国際交流委員を努めて参りました。地域や大学においては、地域拠点大学として山形県内でのエネルギー環境教育の普及活動を行うとともに、米国のエネルギー環境教育の動向についても研究を行ってきました。今後は、これまでの経験を生かして微力ながら本学会に貢献したいと考えております。
理事	島崎 洋一 (現 理事)	やまなしエコティーチャー、省エネエキスパート（診断・指導級）として、地域のエネルギー環境教育の実践促進に努めています。山梨エネルギー環境教育研究会の活動を継続し、2010年度に「やまなし環境学習プログラム」の開発を担いました。2011年には第6回全国大会の実行委員長を務めました。今後も企画調査を中心にエネルギー環境教育の普及啓発に貢献したいと考えています。
理事	清水 洋一 (現 理事)	沖縄地域において、エネルギー環境教育に関する教材開発及び授業実践を行っています。沖縄エネルギー環境教育研究会の代表を務め、琉球大学の教育学部教員、小中高校教員、エネルギー関連企業、行政、NPO等と連携しエネルギー環境教育の普及・啓発活動を推進しています。学会においては、授業実践委員会委員を務めています。今後とも本学会の更なる発展及び活性化に向けて理事として頑張りますので、引き続き宜しくお願いたします。
理事	妹尾 理子 (現 理事)	私は現在、教育学部で小学校および中学・高校の家庭科教員の養成に携わっています。生活環境や住環境に関する教育を教育・研究しています。大学のある地元自治体の環境関連部局と連携した環境学習教材の開発や、家庭科の先生方と共同した教材開発・授業づくりにも取り組んでいます。学会では編集委員として学会誌発行のお手伝いをしてきました。今後も微力ながら学会活動に貢献していきたいと思っています。
理事	丹沢 哲郎 (現 理事)	エネルギー教育に対する国の支援が再開される中、一方では、京都議定書からのアメリカ脱退などネガティブなニュースも伝わってきている。本事例に典型的に見られるように、エネルギー環境問題と経済の両立の問題は喫緊の課題である。そのため、学校におけるエネルギー環境教育はその重要性をますます高めており、すべての国民が共通に学ぶ素養としての本教育・研究の発展に、行政や産業界との連携も大切につつ、本学会の理事としての経験と経産省の教材開発事業やモデル校事業の経験を生かして、取り組んでいきたい。
理事	蔦岡 孝則 (現 理事)	私はこれまで、物理教育の立場から初等・中等教育におけるエネルギー環境教育用教材の開発や、理科カリキュラムの検討を行ってきました。現在、中国エネルギー教育地域会議の代表として、中国地域のエネルギー教育モデル校やエネルギー環境教育を推進する大学、機関と連携してエネルギー環境教育を推進しております。日本エネルギー環境教育学会では、2011～2016年度の期間に理事として企画調査、編集委員会に参画してきました。今後とも、我が国のエネルギー環境教育の発展に尽力する所存です。
理事	寺木 秀一 (現 理事)	これまで、主に大学において教員養成（小学校、中学校、高等学校）課程でエネルギー環境教育に関わり、本会の理事として、放射線教育、炭素社会教育を推進してきた。理事立候補にあたり、今後は、小学生、中学生および社会人のための環境教育プログラムの作成を進めたい。さらに、新学習指導要領にいう対話的・主体的な深い学びをエネルギー環境教育でどのように進めていくか、会員の周知を集めて検討していきたい。
理事	畑中 敏伸 (現 理事)	持続可能な社会の構築のために、エネルギー環境教育は大変重要だと思います。私は、これまでの千葉県でのエネルギー教育拠点大学と第9回全国大会の組織運営での経験と学びを踏まえ、国際交流など様々な側面で学会運営に協力し、エネルギー環境教育の普及拡大を通して社会に貢献する学会なるよう微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。
理事	藤本 登 (現 理事)	現在、副学長（地域教育連携担当）として地域教育総合支援センター長を、また教育学部の実習委員長等を担当しており、学内業務が多い。本学会では、企画調査や授業実践を担当した経験がある。教育現場での普及・啓発を基本に活動を行っている。
理事	三木 直輝 (現 理事)	北海道にて学校現場でのエネルギー環境教育実践の普及と深化を目指して活動すると同時に、学会の理念であるBig Umbrellaに近づくため公立の小中学校での全国大会（第11回大会）を開催してきた。可能ならば実践委員会に所属し、学校現場での実情を踏まえ研究者や企業、行政との橋渡しを務め、実践研究の深化を進めたい。特に、研究の成果を学会全体として共有し、よい実践を皆が利用できるように整備していきたいと考えている。  (推薦)学会の理念であるBig Umbrellaを具体化した第11回全国大会の実行委員長として、小学校を会場とした大会を開催し、大成功を収めた。電気新聞のエネル

		ギー教育賞最優秀賞受賞(美香保小)など豊富な実践経験をもとにした小学校の現場の実情を踏まえた指導助言を、エネルギー教育モデル校や実践者等に発信している。
理事	山本 照久 (現 理事)	2011～2016 年度の本学会理事として、また、関西エネルギー環境教育ワークショップのメンバーとして、エネルギー環境教育に関わってきました。2014～2016 年度の3年間は、エネルギー教育モデル校である加古川中学校の教頭として、エネルギー環境教育を推進してきました。このたび、教育委員会に戻りましたので、これまでの経験に加え、教育行政の視点から、事業実践委員会に貢献できればと考えております。どうかよろしく申し上げます。
理事	田中 稲子 (現 監査役)	2006 年に貴学会へ入会後、2007 年より学会誌「エネルギー環境教育研究」の編集委員を務めております。2002 年度に前任校(名古屋工業大学)がエネルギー教育調査普及事業の地域拠点大学に選定されたことを契機として、建築分野におけるエネルギー環境教育研究を開始いたしました。現任校では、小中学校と連携しながら省エネルギーに繋がる建築技術や住まい方を体験的に学ぶための授業や教材の開発を続けております。貴学会では、編集や実践面で貢献できれば幸いと存じます。
理事	栢野 彰秀 (新規)	職場が島根原発から約8kmに位置している関係で、松江市内外の小・中学校の先生方とともに山陰エネルギー環境教育研究会を組織し、放射線教育に取り組んでおります。事務局長を務めました第8回全国大会(2013年)は、口頭発表72件他の盛会となりました。 学会が設立されてから10年以上たちます。学会設立の理念を継承しつつ、現代的な課題にも取り組み、さらに学際的かつ多面的・総合的な学問観の視点から幅広い情報交換や交流ができる学会になれば、と考えております。
理事	出口 憲 (新規)	現在まで広報委員会の副委員長として学会のホームページや全国大会の申し込みなどのサーバー管理をしてきました。今後のエネルギー環境教育学会の発展に貢献できるのであればということで理事に立候補いたします。今後も広報活動を中心として学会活動を盛り上げていければと考えております。個人的に興味のある研究対象として、物理学の電磁気学におけるエネルギー概念を明確にすることで電気回路と場の考え方を融合した捉え方ができないかを考えています。よろしく願いいたします。
理事	平賀 伸夫 (新規)	私は平成21年度に三重県理科・エネルギー教育研究会を立ち上げ、会長をしている。会員は、三重県内の小・中・高校の先生である。エネルギー教育実践について共同で研究し、その成果は、理科関連の学会で毎年発表している。発表件数は例年10件以上あり、活発に活動している。三重県での積極的な実践研究の成果を全国に情報発信していくことを通して、学会およびエネルギー環境教育の発展に貢献したい。
理事	森山 正樹 (新規)	エネルギー教育モデル校の推進委員を含めて、配属校で理科を中心に教科の枠を超えた有機的なエネルギー環境教育の展開を推進してきた。また、北海道エネルギー環境教育研究委員会 研究部会のととりまとめ役として、公開授業のより効果的な授業づくりに関わっている。本学会の実践報告賞や電気新聞主催エネルギー教育賞最優秀賞受賞の実績を踏まえ、他教科、他校種間のつながりを意識し、児童・生徒に育みたい資質・能力をより明確にしたエネルギー環境教育の在り方を提案していきたい。  (推薦)本候補者は、41歳の理科教諭で、北海道大学エネルギー教育研究会に加えて、小中学校教科研究会横断型の北海道エネルギー環境教育研究委員会において、教科を超えてリーダーシップを発揮し活躍されている。また、北海道での先導的な実践が評価されて、既に本学会と電気新聞主催の授賞事業で多数の受賞実績を挙げており、本学会の特徴である学校現場でのエネルギー環境教育の展開において、理事として大きな貢献が期待できる。 受賞等の参考情報： ○エネルギー環境教育研究 第5巻 第2号(2011.6)：中学校理科「プラスチック」の学習からエネルギー環境問題に迫る授業実践 学会賞(実践報告賞) ○エネルギー環境教育研究 第6巻 第2号(2012.6)：学校現場の放射線教育－中学校での旅行的行事と連携させたエネルギー環境教育の実践－ ○エネルギー環境教育研究 第10巻 第2号(2016.6)：中学校理科「エネルギー資源とその利用」の学習におけるエネルギー環境教育の工夫 学会賞(実践報告賞) ○電気新聞主催エネルギー教育賞(2012および16年度)最優秀賞 受賞(札幌市立宮の森中学校および白石中学校) ○電気新聞主催エネルギー教育賞(2015年度)優秀賞受賞(札幌市立白石中学校) (推薦)電気新聞のエネルギー教育賞最優秀賞2度受賞(宮の森中、白石中)、学会賞(実践報告賞)受賞など、中学校でのエネルギー教育の具体に多くの実績を上げている。専門の理科だけでなく他教科とのクロスカリキュラムを試みるなど新学習指

		導要領の方向を意識した実践も行っている。学会の理念である Big Umbrella を発展させていくためにも中学校の実践者の視点・発想が必要と考え推薦する。
--	--	--

監査役	山中 和典 (現 監査役)	2014～2016 年まで本学会の監査役を務めました。引き続き、微力ながら本学会の発展に寄与できるよう尽力いたします。
監査役	萱野 貴広 (現 事務局長)	2012 年 4 月から事務局長として、本学会の振興と社会貢献に努めて参りました。物心共に復旧復興を急ぐ厳しい時期でしたが、皆様のご理解ご協力のお陰で、僅かではありますが寄与できたのではないかと思います。 本年を以て事務局長の任を外れるに際し、今までの経験を活かし本学会の監査役として、これからの学会の発展とエネルギー環境教育の推進に貢献して参る所存です。

※転載不可 (日本エネルギー環境教育学会事務局)